

# 吳廣國道の開通

藤 本 隅 次

吳市は鎮守府並に海軍工廠を設置せられてより躍進的の發展を遂げ、軍港及工廠を有する近代的都市であり、賀茂郡廣村も亦飛行機製作に關し東洋一の稱ある廣工廠の所在地として著名である。則ち兩都邑の圓滑なる連鎖を圖り其の附近地に於ける交通施設の整備に資する爲道路改修の要緊急切實なるものあるに鑑み、廣島縣に於ては大正九年經費三百四萬餘圓を以て此の間に介在する國道三十二號、同特二四號及府縣道西條吳線、同内海吳線、同廣島濱港線の改築を計畫し、縣會の議を経て之が繼續費を設定し直に用地買收地上物件移轉補償等の折衝を進めて大正十三年之が工事に着手し、爾來幾多の難關を突破し終始克く盤根錯節を拓きて昨年三月其の工を竣へ、十二月六日午前十一時より

指定港灣たる賀茂郡廣村地内長濱港埋立地に於ていとも嚴肅に之が竣功式を舉行せられた。因に當日は早朝より神官係員等の奉仕により式場は隈なく清められ、定刻に至るや神々しき奏樂裡に降神の御儀あり、齊主に次で祭主早川知事、副祭主長谷川土木部長、加藤吳鎮守府司令長官、縣會議長、地元市町村長、來賓總代等順次玉串を奉奠して神事を了し廳で式典に移り早川知事の式辭、長谷川土木部長の工事報告、内務大臣の祝電、加藤吳鎮守府司令長官、縣會議長、吳市長等の祝辭並に水野道路改良會長外多數祝電の披露ありて滞りなく式を了へ、引續き祝賀協賛會の饗宴場に於て祝賀宴會の催あり、盛況裡に諸種の行事を終へた。

内務大臣ノ祝電

本日茲ニ國道三十二號外四線道路改良工事竣功式ヲ舉ケラル、ハ殉ニ欣慶ニ堪ヘズ將來官民一致維持改良ニ努メテ茲ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ望ム

式 辭

吳廣間國道府縣道改築工事成リ茲ニ本日ヲトシテ之カ竣功ノ式典ヲ舉行スルニ方リ多數貴賓ノ賁臨ヲ辱フシタルハ洵ニ欣幸トスル所ナリ

惟フニ吳市ト廣村トハ相共ニ軍事上極メテ樞要ノ地點ヲ占メ其ノ連絡並ニ附近地ニ於ケル交通施設ノ整備ハ夙ニ重要案件ニシテ更ニ輓近産業ノ發展ニ伴フ人口ノ膨脹ハ一層之カ完備ヲ要スルコト緊切ナルモノアルニ拘ハラス兩者ヲ連絡スヘキ道路ハ辛シテ人車ヲ通スルニ過キスシテ近代高速度交通機關ノ利用ニ適セス之カ改築ノ要切實ナルモノアルニ鑑ミ縣ニ於テハ大正九年ノ通常縣會ニ於テ之カ豫算ヲ決定シ國庫ヨリ多額ノ助成ヲ得吳市廣村及同時ニ軌道ノ敷設ヲ爲シタル藝南電氣軌道株式會社亦夫々相當ノ負擔ヲナシ

用地ノ買收其ノ他ノ諸準備ヲ進メテ大正十三年之カエヲ起シ爾來銳意工程ノ進捗ニ努メタリ而シテ關係路線ハ國道三十二號同特二十四號府縣道西條吳線同内海吳線及同廣長濱港線ノ五路線其ノ延長一萬千三百餘米ニ達シ十二ヶ年ノ星霜ト工費約三百四萬餘圓ヲ費シテ之カ完成ヲ見ルニ至レリ則是等吳廣道路ノ竣成ニ依リ今ヤ空前ノ時局ニ際會シテ國防上ニ資スル所アルト共ニ地方産業ノ振興ト人文ノ發達ニ裨補スルトコロ蓋シ鮮少ナラサルモノアリト信ス驥クハ關係各位克ク本道路ノ使命ヲ了得セラレ長ヘニ有終ノ美ヲ收メラレムコトヲ茲ニ本事業ノ達成ニ多大ノ援助ヲ致サレタル政府當局竝ニ關係方面ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表シ以テ式辭トス

昭和十一年十二月六日

廣島縣知事 早川 三郎

工 事 報 告

吳廣間道路改築竣功式に當リ工事の概要を報告せんとす  
本道路は吳鎮守府正門より吳市本通、西畑、阿賀の各町

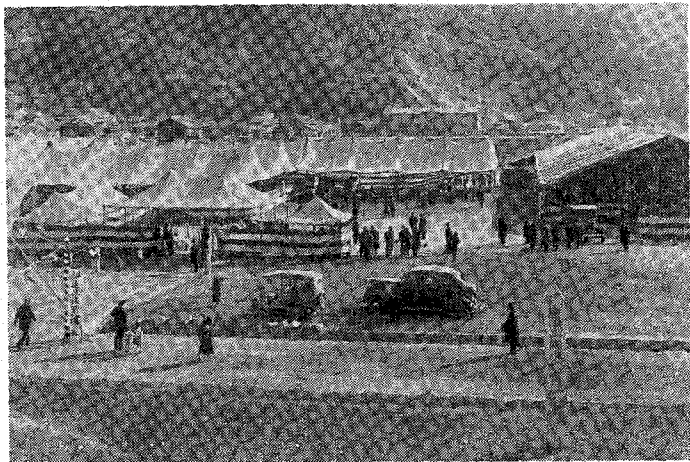
及廣村大新開、廣工廠正門前を經由して、指定港灣たる長濱港に至る。軍事上樞要なる地位を有する道路と廣村大新開に於て前述の道路より分岐し、同村白石に至るものにして國道三十二號、同特二十四號及府縣道西條吳線、同廣長濱港線、同内海吳線の五路線を包含し、大新開白石間を除き他は何れも軌道を併用せり。

抑々本道路改築の計畫は大正九年の通常縣會に於て國庫補助及吳市廣村並軌道を併用せる藝南電氣軌道株式會社に對する負擔金を財源の一部に充當し、大正十年度より昭和六年度に至る繼續事業として工費豫算百七十四萬八千貳百餘圓を以て國道三十二號及府縣道西條吳線改築の議を決し、

次て昭和四年の通常縣會に於て吳市、廣村及藝南電氣軌道

株式會社の負擔金を財源の一部として工費六十一萬四千五百六十餘圓を以て昭和五年度より同十年度に至る繼續事業として府縣道廣長濱港線及同内海吳線改築の決議を得たり。又更に國道特二四號の新設は大正十年度より工費八十一萬九千六百餘圓を以て國庫及藝南電氣軌道株式會社の負擔を以て縣に於て之か執行をなすことに決したり。

仍て夫々設計調査に着手し用地買収並地上物件移轉補償等の折衝を重ねて大正十三年十月之を了せり、而して工事は施行の關係上國道三十二號及府縣道西條吳線を五工區に分ち



國道特二十四號は道路と各橋梁工事とに區別し府縣道廣長

濱港線同内海吳線は之を一括して施工することとなせり。

國道三十二號及府縣道西條吳線は財源支出年度割及工事施行の關係上大正十三年十二月以降四回に分割して請負に

附し、大倉土木株式會社外三名と請負契約を了したり。國

道特二十四號中廣大橋は昭和四年四月、森田福市と同二級

橋は同年八月、大林組と道路工事は川本元三郎と夫々請負

契約を爲し、府縣道廣長濱港線及同内海吳線は昭和八年一

月森岡多吉と請負契約を締結して何れも豫定の通工事を進

捗せしめたり。

次に改築せる道路の總延長は一一、三五八米にして、其の

内譯は國道三十二號二、三七二米、同特二十四號二、五九七

米二、府縣道西條吳線三、六二五米、同廣長濱港線九五四

米、同内海吳線一、八一〇米にして其の幅員は國道三十二

號、同特二十四號及府縣道西條吳線は何れも十八米、府縣

道廣長濱港線は十五米にして何れも軌道を併用せり、又府

縣道内海吳線は當初軌道を併用すへき豫定なりしも軌道經

營者之を廢止せるを以て六米となせり。最急勾配は二十分

の一にして、最少曲線半径は七十米なり、路面鋪裝は歩道の一部に混凝土版を使用せる外、アスファルト系鋪裝を施行せり。

橋梁の主なるものは二級橋、廣大橋の二橋にして二級橋

は其の延長一四五米四、幅員車道一・二米一二、兩側人道各

一米八二にして丁桁式鐵筋混凝土單桁橋なり、廣大橋は其

の延長一一・二米四、幅員及形式は二級橋と同一となせり。

今本工事に要したる經費及財源を細別すれば

工事費

一、五七一、三九八圓

用地費

九四九、八四一圓

補償費

三六八、三〇八圓

雜費

一五一、三九六圓

計

三、〇四〇、九四三圓

にして其の財源の内譯は

國庫負擔及國庫補助

一、四四六、七五四圓

吳市負擔

二七六、六八〇圓

廣村負擔

二三〇、二二九圓

藝南電氣軌道株式會社負擔 六九二、一五〇圓

縣 負 擔 三九五、一三二圓

なり。

本工事は着手以來多大の日子を費し且工事期間中財界の變動其他の關係上豫算の更正繼續年期の變更等ありたるも

關係方面の助力と當事者の熱烈なる努力とに依り順調に進

捗して本年三月全區間の完成を見たり。

右工事の概要を述べて報告とす。

昭和十一年十二月六日

廣島縣土木部長 長谷川勝伍

## 一里塚址より見たる

# 徳川時代水戸街道の經路に就て

田子作 太郎

徳川時代に於ける水戸街道が、所謂五街道と共に江戸を中心とする主要道路であつたことは周知の事實であるが、その經路に就ては猶判然せぬ點が多い。

今迄の諸説は概ね我孫子より取手を経て水戸に至るのを以て水戸街道の經路として居る。最近土木學會より發行し

た「明治以前日本土木史」等に於ても矢張りその説を採つて居るが、この取手經由説に對して千葉縣土木課の渡部氏は同縣内に存在する一里塚の遺址より稽へて「徳川時代初期に於ける水戸街道の系統は、我孫子より布佐、布川を迂回して水戸に至つたものであつて、取手を經由する様にな